原発再稼働阻止 全国ネットワーク ニュース

ニュース 第12号
2017年7月20日
発行:再稼働阻止全国ネットワーク
(070-6650-5549)

101-0061 東京都千代田区三崎町2-6-2ダイナミックビル5F たんぽぽ舎 気付

原発の再稼働を許さず、原発を全廃して、重大事故の不安のない社会を目指しましょう！

高浜原発3、4号機再稼働阻止現地行動を闘い抜いて―若狭の原発を考える会・木原壮林

民意は脱原発！アメーバ行動を拡げ、大飯、高浜、美浜原発の再稼働を阻止しよう！

《大阪高裁の不当な決定に怒りが爆発
関電包囲と御堂筋デモに700名が結集！》

3月28日の大阪高裁の不当決定を受けて、高浜原発3、4号機が、圧倒的な脱原発、反原発の民意を蹂躙して、再稼働された。

関電は、大阪高裁での抗告審の中で、原子力規制委員長までもが「安全を保証するものではない」と言う“新規制基準”を「安全基準」とし、原発に「絶対的安全性を求めるべきではない」と主張し、「原発は安全であるから、“新規制基準”に避難計画は不要」としている。関電や原発産業の利益のために、「新しい安全神話」を作り、人の命と尊厳をないがしろにするものである。

我々民衆の側は、この関電、政府、大阪高裁の暴挙を座視してはいなかった。関西や福井を中心に全国の多くの団体は、「原子力発電に反対する福井県民会議」の呼びかけに応えて、高裁決定直後の4月2日に「高浜原発うごかすな！実行委員会」を結成し、4月27日「関電包囲全国集会」および御堂筋デモを断行した。大阪高裁での不当決定から、1カ月弱という短期間で準備され、しかも、週日の午後という悪条件にもかかわらず、700人もが結集した。

《5．7ゲート前行動から高浜～福井リレーデモへ》

5月7日には、高浜原発前および高浜町内で「高浜原発うごかすな！現地集会」および町内デモ全国から400人が結集した。

＜福井市内に入る高浜～福井リレーデモ隊(5/12)＞

さらに、8日～12日には高浜-福井リレーデモが、出発日の80人を始め、延べ400人の参加で決行された。沿道の12市町、関電原子力事業本部、原子力規制委員会分室、福井県への申入れも行った。高浜町内デモ、リレーデモでは、沿道からの温かい声援の多さに、参加者一同「福井でも脱原発が民意」の確信を得、感激した。市や町の対応もおおむね好意的で丁寧であった。一方、福井県の対応の不遜さは参加者の怒りをかった。12日には「福井集会」とデモが120名の参加で行われた。

＜6/6(火)3号機14時再稼働　ゲート前で抗議する120名の市民。韓国からも行動に参加＞

５月 17 日の４号機、６月６日の３号機の再稼働当日、「若狭の原発を考える会」の呼びかけで抗議行動が展開された。全国から各々80 名、120 名が参加し、正午に高浜原発先の展望台に結集の後、デモで原発前に向かい、申入れ行動と怒りの抗議行動を展開した。再稼働の報が入るや、怒りは頂点に達した。後、再稼働されても反原発の正義の闘いが挫けることは無いことを確認し、「民意を無視したら大変なことになる」ことを敵に思い知らせるような運動の高揚を誓って散会した。６月６日の参加者が、５月 17 日のそれを上回ったことは特筆に価する。

より鋭く、より広く住民との連携を深め、この秋の闘い、大飯・高浜・美浜原発の再稼働に備えよう！民意は我らにあり！

関電は、今後、大飯 3、4 号機、老朽高浜 1、2 号機、美浜３号機の再稼働を画策している。「若狭を原発銀座へ」の夢の再現を企み、安倍政権の「2030 年までに原発電気を 20～22%にする」という、人の命と尊厳より経済的利益を優先し、戦争できる国造りを進める政策に迎合するためである。

今、安倍政権は、彼らの企みの矢継ぎ早の実行によって、国民の抵抗への無力感脱力感を醸成しようとしている。しかし、このような強権政治が長続きするはずがない。今こそ、私たちは、圧倒的な大衆運動の高揚によって、電力会社や政府を震え上がらせ、原発を断念させなければならない。

「8.4 講演・討論会」in 若狭

『原発にたよらない町づくりを目指して』

講演：山崎隆敏さん(サヨナラ原発福井ネットワーク代表)

『なぜ「原発で若狭の復興」は失敗したのか

–県民的対話のための提言』著者

講演：韓国で脱原発運動を進める若者

会場：まちの駅ぷらっと Home 高浜(高浜駅２階)

８月４日(金)13 時～16 時 45 分

＊18 時からは**キャンプ in 若狭和田ビーチ**

８月 5 日(土)アメーバ行動

連絡先 090-1965-7192(木原)

そのような運動の一つとして、私たちは、アメーバデモをさらに拡大し、若狭および周辺に多数存在する「隠れ脱原発」の声の顕在化を図る。とくに、関電が秋にもと企む大飯原発再稼働阻止の闘いを強化する。

一方、若狭の住民に原発依存からの脱却を訴えて、8 月 4 日、高浜町で「8.4 講演・討論会 in 若狭“**原発にたよらない町づくりを目指して**”」を開催し、去る４月発売の『なぜ「原発で若狭の振興」は失敗したのか　ー県民的対話のための提言』の著者・山崎隆敏さんおよび韓国で、脱原発運動を展開し、原発のない町づくりを考える若者の代表の講演の後、討論を行う。また、講演・討論会終了後、若狭和田海岸に移動し、バーベキューを楽しみながら、原発にたよらない町づくりについて懇談する。（テントで宿泊）

多数のご参加をお願いします。

再稼働阻止ネット《全国相談会》5月15日~16日 東京で開催される

報告

特別講演:広瀬隆氏「**大地震の切迫と原発再稼働・使用済み核燃料プールの危険性**」

分科会／全体会　［原発現地報告・討論・まとめと方針決定］

第１分科会：電力資本への批判と運動（原発現地から）

第２分科会：原子力規制委員会・経産省への批判と運動　小野有五さん、山崎久隆さん、木原壯林さん

第３分科会：福島の被ばく労働と住民被爆と運動（協力：被ばく労働を考えるネットワーク）

発言－　被ばく労働者／小幡ますみさん

広瀬隆氏講演『大地震の切迫と原発再稼働・使用済み核燃料プールの危険性』を聞いて

斎藤なぎさ

「富士山は１万メートルでヒマラヤより高い」と言われ、最初から広瀬さんの話に引き込まれた。中央構造線とは上下に数千メートルのずれが生じている超巨大な活断層である。それが今動き出している。熊本

＜１００名を超す参加者が広瀬氏の講演に聴き入った＞

地震が起こったのに川内原発を止めず、なおまた伊方原発を動かしたと広瀬さんはあきれ返る。福島原発事故の場合は放射性物質の８割が太平洋に行った。空母ロナルド・レーガンは放射性物質の真下にいたので数人の死者が出ている。２割でも大変なことが起こっているのに、川内原発や伊方原発が事故を起こせば、放射性物質は偏西風に乗って日本全土が壊滅状態になる。

川内原発・伊方原発は直下に中央構造線がある。福島原発ではＰ波（第一波）とＳ波（第二波）の間に時間差があったので核分裂反応を止める「スクラム」ができた。それが川内原発や伊方原発では１秒もなくて「スクラム」できないだろうと広瀬さんは言う。

次に地震の基礎知識を教えてくれる。マグニチュード 8.0 は 6.5 の 200 倍。原発が直下の揺れに耐えられるのは、わずかマグニチュード 6.5 である。原発は 1000 ガルにも耐えられると電力会社は言うが、980 ガル（万有引力 G）を超えると物が宙に浮く状態。「嘘をつくな」と広瀬さんは語気を強める。

日本列島が活断層である。最終処分場はできない。熊本地震では土砂崩れではなく山体崩壊が起きた、と言う。ここで広瀬さんは、熊本地震後に道の下がなくなってわずか数センチの厚さしかないアスファルトに立って下を覗き込んでる女性の写真を見せてくれる。「下なんか覗くな」と写真に叫ぶ広瀬さんに、思わず笑ってしまう。が、同時に「これが現在の日本人の姿だ」と指摘されヒヤリとする。

その後も日本の原発がいかに杜撰であるかを説明していく。そもそも原発の耐震性は松田時彦という人が出した何の根拠もない式を使って設計された。九州電力による川内原発周辺の断層分布図を見ると、なぜか断層が切れてなくなっている。使用済み核燃料をぎゅうぎゅうに押し込めたリラッキングは燃料と燃料の間をこれまで以上に狭くしているので危険。使用済み核燃料はプールから取り出してドライキャスクに移すと良いと提案する。

熊本地震の後に、今までほとんど起こらなかった韓国やフランスで地震が起こったことから、ユーラシアプレート全体に異変が起きているのではないかと広瀬さんは危惧する。ヨウ素剤の配布準備を促す広瀬さんを見て、原発を止めていく運動と同時に被ばくを未然に防ぐ手立ても必要だと感じた。

《分科会報告ー5 月 15 日専修大学キャンパス》

〈第一分科会〉『電力（資本）との闘いと運動』報告

東海第二・東電・九電・関電・民間規制委の闘い

事務局　久保清隆

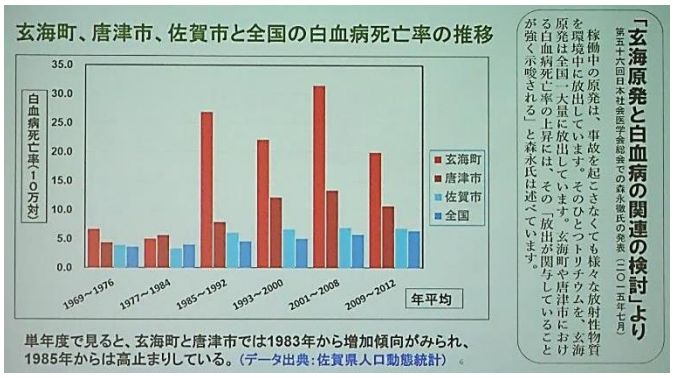
5 月 20 日専修大で行われた、広瀬隆さんの講演の後、千代田区のひまわり館で上記の課題で分科会を行いました。特に運動的には様々な意見が出たので全てをご紹介できませんが、お許しください。まず原発立地を中心に報告をうけました。

原電と闘う茨城・東海第二原発の相沢一正さん（脱原発とうかい塾）よりの報告からはじまりました。氏は再稼働は原発立地のみの合意だけでなく周辺自治体の合意を求める運動が必要と述べられました。

東電本社との 43 回にも及ぶ抗議行動の意義が、渡辺秀之さん（たんぽぽ舎）からなされました。福島事故の責任追及と柏崎刈羽原発の再稼働を許さない闘いを継続することの意義が強調されました。

四電・伊方原発との闘いの報告が名出真一さんからありました。毎月のゲート前「１１行動」の継続が全国とつながり再稼働後の運動を継続しており、「再々稼働」の闘いがあきらめられず闘い続けられおり、運動拠点も作られていることが報告されました。

九電・玄海原発との闘いは、「戦争と原発のない社会をめざす福岡市民の会」の工藤逸男さんが行いました。九電が「やらせメール問題」を起こしたり「免震重要棟」建設を反古にしたりとひどいことをやってきている事実を地域住民に知らせていくことで、玄海原発反対を訴えていくと述べられました。



最後に「民間規制委」の中村泰子さんからはこれまで九電、四電、東電と交渉を重ね、設計の具体的問題点を指摘し、勧告してきたことが報告されました。

尚、関電・高浜原発の闘いの報告を予定していましたが、4号機が17日再稼働された直後で緊急事態に備えるということで「若狭の原発を考える会」の木原壮林さんのチラシやニュースを紹介し報告に代えました。

以上の報告を受け自由討議に入りました。まず共同代表の柳田真さんからは、この間の運動の成果と課題が述べられました。

① 伊方の運動に見られるように原発立地では、署名よりアンケート調査という形でのハガキ運動は意義がある。

② 高浜で 90 回近く行われたアメバーデモは住民を掘り起こしている。

③ 自治体議員連盟が、再稼働問題を周辺自治体につきつけてきた闘いは大きい、住民包囲の再稼働阻止の運動が重要。

④ 裁判―司法に頼るだけの運動ではダメだ、と運動課題を提起されました。

〈おもな意見を書き出しておきます〉

○アメーバーデモは住民掘り起こしに有効な方法だ。

○「人々に注目される運動」の工夫が必要。マスコミにも取り上げさせることも考えるべきだ。

○原発に頼らない街作りを提起していくべき。

○東電に責任を取らせてないことが他の電力会社の横暴を生み出している。

○反原発自治体議連を関西にも立ち上げていく、住民・市民との交流を作る

○「核燃料」処理問題は限界に来ている、全国に訴える運動が必要等―以上。

〈分科会報告　第二分科会〉
『原子力規制委員会・経産省への批判と運動』報告

事務局　木村雅英

原発を止め為には、「エネルギー基本計画」など原発推進政策を決めている経産省、既存原発の適合性審査をして再稼働を推進している「原子力規制委員会」をそれぞれどう攻めるかが非常に重要。それを摸索する為の分科会を開催した。

最初に小野有五さん（「行動する市民科学者の会・北海道」事務局長、北海道大学名誉教授）が、全体会での泊原発敷地内に「活断層」説明に続いて、「泊原発　再稼働してはいけない８つの理由」をリーフレットを参照しながら次のように説明した。

１．泊原発なしでも、北海道の電力はこんなに余裕があり、将来はあり余るほどになる！

２．原発のコストはこんなに高かった！　みんなの税金をつかって安く見せていただけ…

３．原発に過度に依存、再生可能エネルギー導入に消極的な北電は、北海道経済の足を引っ張る！

４．泊原発の敷地内には「活断層」！　北電のこれまでの主張には根本的な誤りが！

５．積丹半島の海岸地形は、「広域的隆起」ではなく、「地震性隆起」を示している！

６．洞爺火砕流は泊原発まで行ったはず！
北電の調査はずさん！

７．事故のとき、ほんとに避難できますか？
札幌市民も避難が必要なのです！

８．人間は危険なゴミを１０万年も管理できますか？

続いて、山崎久隆さんが「国策・民営で斜陽産業を守る経産省」と題して、昨年末に経産省が発表した「東電２１．８兆円」の中身を次のように問うた。

・福島原発処理費用の増加（１１兆円＝＞２１．５兆円）と負担の構図。

・除染や中間貯蔵施設や賠償の費用が全世帯に押付けられる。

・デブリ取り出しの目途は全く立っていない。

・原発事故の処理策／国民不在の結論は言語道断。（河北新報報道）

・原子力損害賠償・廃炉等支援機構法から賠償措置額と補償料率の関係。

特に、「ツケは国民に押し付け」られていることを図で示した。

更に、私からは、３．１１後６年間の経産省と原子力規制委員会の施策を振り返り、規制委は再稼働推進のみならず福島県民に被曝を強要していること、両者

が再稼働推進の元凶であることを話した。また、FoE Japan の吉田明子さんが経産省の「３Ｅ＋Ｓ」批判のリーフレットを準備中であることを説明した。

残念ながら、和室を敬遠されたからか参加人数が少なく、また質疑討論では事実確認が中心となり、規制委や経産省をどう攻めるかの議論が十分にできなかった。特に、規正委の泊原発審査にブレーキをかけた「行動する市民科学者の会・北海道」の方法を是非他の原発でも生かせると良い、議論を深めたい、と考えていたのだが…。

〈分科会報告　第三分科会〉
『福島の被曝労働と住民被曝運動』３つの報告
木幡ますみさんの福島報告
福島での労働者被ばくの実態
「福島原発被ばく労災損害賠償裁判を支える会」の活動

事務局　天野恵一

この分科会は、私たち再稼働阻止全国ネットワークと、ほぼ同時期にうまれた「被ばく労働を考えるネットワークの全面的な協力の下に準備され、つくりだされた。この「被ばくネット」は、労働組合や労働者の健康被害の問題に取り組んでいるグループ、寄せ場労働者支援、いろいろな反原発運動などの社会運動に参加しているグループ・個人が〈３・１１〉福島原発震災の衝撃的な事故を契機に集まって結成された運動体である。

報告者のトップは、大熊町町議の木幡ますみさん。彼女は、福島で、実は死者はますます増えていると語りこう続ける。もちろん自殺者でなく病気で亡くなる人が。それは被曝と死者の因果関係はないと言われているが、事実として 2013 年頃から原発労働者もたくさん亡くなっている。

とにかく被ばくは一生の問題で、命にかかわる問題。原発三〇キロ圏内で骨肉腫と白血病になった子どもたちも増えている。

原発があるために、増大している事実はハッキリしているのに、直接的因果関係が認められないから、とすべてがホッかむりされている状態を、彼女は怒りをこめて具体的にレポート。さらには自分も参加している地域クリニック活動を紹介し、自分たちの命は自分で守る必要を力説。

次いで、「被ばくネット」のリーダーの「なすび」さんが、「福島での労働者被ばくの実態」について、実に詳細な公表されているデーターを批判的に解読しながら、被曝労働なしに原発は稼働しない事実を、明確かつリアルに示すレポート。

労働者の外部被ばく線量を内部被ばく線量の合算値（実動線量）の算定方法とその推移或いは、労働の具体的な作業内容の紹介もあり、非常にわかりやすく、うみだされ続けている被ばく労働者の現実を示した。

最後に「ユニオン北九州」の見口要さんの、立ち上がったばかりの「福島原発被ばく労災損害賠償裁判を支える会（あらかぶさんを支える会）」の活動についての報告。

この間、労働運動は、被ばく労働者（労災）の問題に正面からとりくまないどころか、原発会社と一体化し、組合として被ばく労働の実態を隠蔽してきた歴史がある。この負の伝統をつくりかえ、まともな労働運動を再生させるための契機として、この裁判闘争を闘っていきたい、と力強くアッピール。原発再稼働問題と被ばく労働問題は、切っても切れない関係にあるはずだが、運動課題としては別々に取りくまざるをえないのが現状。ゆえに自覚的に、交流させて共に考えてみる機会は、もっと、つくられ続けるべきだという思いを強くした。いい集まりであった。

九電東京支社抗議／東電本店合同抗議 [毎月第1水曜]
（主催:再稼働阻止ネット）　（呼びかけ:たんぽぽ舎/経産省前テントひろば）
次回8月2日（水）　次々回9月6日（水）
九電東京支社（17:30～　有楽町）　東電本店（18:30～新橋）

原発再稼働をゆるすな！　夏－秋の焦点

東海第二原発(日本原電) 大飯原発(関西電力) 玄海原発(九州電力)の再稼働に反対

［8.26 ヒューマンチェーン］　［8/4講演・討論会」in 若狭］　［8.27 オール九州 玄海原発 再稼動許さない！」

伊方原発 3 号機(四国電力)再・再稼働反対－高松行動[四電本店]

★STOP!!伊方原発高松集会—原発のない未来のために—　10 月 21 日(土)13時から

★10 月 23 日(月) 朝から四国電力本店前行動　☆「全国相談会」開催予定 10/21～22

1. 夏－秋の焦点としての「4つの原発再稼働」に反対する

１つは、東海第二原発(日本原電)の再稼働に反対する闘い《ＢＷＲ型－沸騰水型原発》
２つは、大飯原発(関西電力)の再稼働に反対する闘い《ＰＷＲ型－加圧水型原発》
３つは、玄海原発(九州電力)の再稼働に反対する闘い《ＰＷＲ型－加圧水型原発》
４つは、伊方原発(四国電力)の再稼働に反対する闘い《ＰＷＲ型－加圧水型原発》

2.「共謀罪法」下の大衆行動…創意・工夫で大衆的に、重層的に、鋭く

残念にも、不当なやり方で「共謀罪」法が可決された。私たちは「共謀罪法廃止」を主張すると同時に今後も「いしゅくしない市民運動」「意気軒昂な大衆運動」を原発反対で続けたい。

「安倍改憲反対」など、重要な運動課題があるが、「原発再稼働反対」は『原発のもつ本源的性質上』からも特別な位置をしめる。原発が大惨事をおこしたら、「大地と生きもの」へ甚大な被害を何十年も何百年も残すこと、放射能ゆえ人間の手で復興できないことだ。

悪法は議会で多数をとれば廃止できるが原発大惨事はそれができない。「福島第一原発事故」の次の大惨事発生の前に、なんとしても原発再稼働を止めよう。

3. 茨城県内の東海第二原発(日本原電)の再稼働に反対、日本原子力研究開発機構の大洗プルトニウム被曝糾弾。

東京に一番近い原発として、東海第二原発(ＢＷＲ型)がある。60 年延長を許さない闘いでもある。茨城県内の現地の闘いと連帯して闘おう。原発は遠い地のことと思っている東京圏の人々に、東京に一番近い原発の危険、プルトニウム被曝の危険を訴えていこう。

私たちの取り組みとして、次の行動が予定されている、全力で成功させよう

イ．８月５日(土)午後の「東海第二原発」と大洗プルトニウム被曝問題の学習会
ロ．８月 26 日(土)の東海第二原発包囲・人間のくさり(1000 人)　東京から大型バスで行く

4. 大飯原発(関西電力)の再稼働反対アメーバデモ

高浜原発再稼働反対(４号、３号)が５月、６月ゲート前大衆行動で闘われた。
１月 1000 名の関西電力本社(大阪)抗議行動以来、民意は原発反対で高まっている。

「若狭の原発を考える会」は、創意工夫でアメーバデモやリレーデモで活動を、民意を広げた。
また、元首相小泉純一郎氏の原発反対講演会が、９月８日(金)福井県小浜市で開かれる。保守層が分岐し、一定の人々が原発反対に立ち上がっている。

5. 玄海原発(九州電力)の再稼働反対

年内にも再稼働が迫っている玄海原発３．４号機(佐賀県玄海町)。原発 30 キロ圏内の８市町のうち、４市の市長が避難計画へのけ念などを表明しています。が、佐賀県知事は再稼働に同意し、「差し止め」の仮処分申し立ても却下された。

８月27日(日)14時より、福岡市天神警固公園(けごこうえん)で、「オール九州玄海原発再稼働を許さない！」集会が開かれる。集会とデモ、九州電力本店包囲行動である。成功をめざし、全国から協力しよう。

6. 伊方原発(四国電力)の「再・再稼働」反対

伊方原発は、来年１月「再・再稼働」の予定だ。「再・再稼働」に大衆的に反撃する試みが四国４県で力強く始まっている。これまでは伊方原発のある愛媛県での行動が主であったが、今回は四国電力本社の香川県高松での大衆行動だ。
10 月 21 日(土)、22 日(日)、全国相談会も連動して設定できた。

「再・再稼働」に怒る・新たな大きな怒りの行動が四国で燃え上がろうとしている。

新たな地平を切り拓く可能性をもっている。全国から 10 月四国・高松へ行こう

7. 原発再稼働反対運動の相乗効果めざして！

電力会社を先頭に国家戦略として、ＰＷＲ型(加圧水型)原発から再稼働が始まった。福島第一原発事故のＢＷＲ型(沸騰水型)原発とは炉型がちがうことで、国民をあざむこうとする計画だ。2011 年３・１１から６年と５ヶ月が経過したが、しかし、９つの電力会社と安倍政権が全力をあげても現在の稼働(2017. ６月)は５基だ。私たちを含め、国民の多くの反対があるからだ。

個々の原発の再稼働阻止は、現段階ではできていない。　しかし、全国各地の再稼働反対の闘いは多くのエネルギーを生み出している。保守層も巻き込んでいる。一定の段階になったとき、それらは、部分的に原発推進側を圧倒する。量から質への転換もありうる。勝利は「遠く」ではない。

一方、警察側の連携は密だ。川内原発反対運動(2015 年８月)の警備上の教訓が関西へ、四国の警察へ伝えられて、警備がアップしている。

私たちも「運動上の教訓」をまとめ、伝え、アップすることに習熟し、時間をさく必要がある。全国相談会の重要性も増している。

柳田 真（たんぽぽ舎）

８月５日(土)学習・討論会

▼東京に一番近い原発＝東海第２原発の問題点
　講師：小川仙月さん(脱原発ネットワーク茨城)

▼原子力機構(大洗)プルトニウム被ばく
　～背景の「常陽」日本核武装
　講師：山崎久隆さん(たんぽぽ舎)

会場：「スペースたんぽぽ」JR 水道橋駅東口５分
（たんぽぽ舎４階 03 - 3238-9035）800 円

【全国各地の集会】

泊原発廃炉でいいんでないかい！岩内
８月１９日(土)１２時～２０日(日)１０時～
北海道岩内町　岩内港フェリー埠頭緑地公園
ライブパフォーマンスと集会

８．２６原発いらない茨城アクション
８月２６日(土)１３時２０分～１５時
集会会場―東海村阿漕ヶ浦公園
東海第二ヒューマンチェーン―２４５号線沿い

オール九州　玄海原発再稼働許さない！
８月２７日(日)１４時～
集会会場―福岡市・警固公園
私たちは玄海原発の再稼働に同意しない！

【全国原発現地のニュースはウェブサイトにアクセスしよう】

・「再稼働阻止全国ネットワーク」
http://saikadososhinet.sakura.ne.jp/
・「原発なくす蔵―☆全国原発関連情報☆」
http://npg.boo.jp/
・「原発いらない福島の女たち」
http://onna100nin.seesaa.net/
・「TOMAROCK/とまロック」
www.facebook.com/events/193672637828527
・「大間原発反対現地集会実行委員会」
https://nonukesooma.wordpress.com/
・「みやぎ脱原発　風の会」
http://miyagi-kazenokai.com/
・「浜岡原発を考える静岡ネットワーク」
https://blogs.yahoo.co.jp/hamaokagenpatunet
・「バイバイ原発・京都」
hatena.ne.jp/byebyegenpatsukyoto/
・「高浜原発うごかすな！実行委員会」
http://blog.goo.ne.jp/takahamakarakanden
・「志賀原発・命のネットワーク」
http://inochi-no.net/
・「越境＞ネット・富山」
www.net-jammers.net/ekkyo-net/index.html
・「サヨナラ原発福井ネットワーク」
http://www2.interbroad.or.jp/shimada/denuclear.html
・「さよなら島根原発ネットワーク」
http://sayonara.daynight.jp/shimanegenpatsu/network/index.htm
・「玄海原発プルサーマル裁判の会」
https://saga-genkai.jimdo.com/
・「かごしま反原発連合」
http://kagohangenlen.chesuto.jp/
・「ストップ再稼働！3．11鹿児島集会実行委員会」
http://kagoshimashukai.chesuto.jp/

「再稼働阻止ネットワーク」からのお願い
▼ネットワークの主な収入源は、個人年会費３千円、団体年会費５千円と皆様からのカンパ収入です。街頭カンパに協力して戴いた皆様に感謝申し上げます。カンパについては全国原発現地の方々が全国行動に参加するたびに交通費の補助を実施してきました。
▼今後の運動に向け、一層全国の皆様の力になれますよう全国ネットワークを強化発展させていきます。皆様のご支援をお願いします。
サポーター会員・カンパ募集中！
郵便振替：00110－0－688699「再稼働阻止全国ネットワーク」

「原発現地へ行く会」からの案内
全国から参加のみなさまへは交通費補助を実施
（東京・関東を除く）

全国の原発現地の皆さんも駆けつける
8.26 茨城アクションへ～　　往復 3000 円
「原発現地へ行く会」バスで行こう
船橋発～東京駅発～ヒューマンチェーン
～交流会～大洗原子力機構～東京～船橋

【８月２６日(土)行動予定】
［東京駅乗り場は後日お知らせ］
船橋駅北口天沼公園８：３０発バス乗車～
東京駅９：３０発～東海村・阿漕ヶ浦公園着
13:20 集会開始～14:00 徒歩で移動(245 号線)～
14:40 ヒューマンチェーン～15:00 終了予定

▼「原発現地へ行く会」は終了後、
東海第二原発再稼働やプルトニウム被ばく事故等の問題を中心に地元の人のお話を聞く交流会予定。
全国原発現地の皆さんも参加。
(15 時 30 分～16 時 30 分　会場は東海村コミセン)
▼帰路のバスで原子力機構大洗研究開発センターに立ち寄り　東京駅着 20:30～船橋着 21:30 予定

《再稼働阻止全国ネットワーク 》
連絡先　TEL　070-6650-5549　　FAX　03-3238-0797　　info@saikadososhinet.sakura.ne.jp
東京都千代田区三崎町 2-6-2 ダイナミックビル 5F たんぽぽ舎気付け

- **共同代表**　中嶌哲演（福井）／佐々木慶子（ふくしま WAWAWA-環・話・和の会）／柳田真（たんぽぽ舎）
斉間淳子（八幡浜・原発から子どもを守る女の会）／ 佐野慶子（元静岡市議会議員）
近藤ゆき子（刈羽村 生命を守る女性の会）／鎌田慧（ルポライター）／ 広瀬隆（作家）